

□議員名：河野朋子

1 財政の見通しについて

論点	財政計画によると、市税は約95億円程度まで落ち込む予想になっている。歳入で、増加が見込める項目はあるのか。
回答	地方交付税が一般財源の大きな柱の中の一つだが、27年度から合併算定がえによる影響があり、31年度以降一本算定となるため、厳しい状況は今後も続いていく。

論点	財政調整基金は平成31年度に約27億円になっているが、最終的にどのくらいの金額を目標としているのか。
回答	現在、約20億円程度で、毎年1億5千万円積み上げるということで27億円になる。今後、予測できない支出等、そういう事態に備えて、やはり30億円以上は積み立てていかなければいけない。

論点	財政計画の中に「今現在、スケールメリットを活かした十分な合併効果は得られていない」とあるが、その原因は。
回答	合併によるスケールメリットの一つとして施設の統合があるが、現状ではその検討が進んでおらず、経費の削減ができていない。今後、事業の厳選と、行財政改革のさらなる推進、再編も含め、公共施設マネジメント計画の策定等、積極的に取り組んでいきたい。

2 26年度予算について

論点	予算編成方針を早い時期に公表するとアクションプランにあるが、26年度予算については公表しなかったのか。
回答	職員に対しては調整方針ということで出している。ただし、市民に対して公表はしていない。

論点	12月1日号の市の広報に職員の給与カットを元に戻すとあったが、これに伴う人件費の増額はいくらになるのか。
回答	一般職の人件費復元による概算影響額は、一般会計、特別会計、あわせて概ね1億3,000万円程度ということで計上している。

論点	同じ広報に審議会委員の日当を改正するとあったが、どのように改正するのか。
回答	これまでの1,000円についての見直しは、行政委員等の報酬審議会に限り、その意見を参考にして市長意見として条令の変更案についてこの議会に出そうと考えている。

論点	山陽オートについて、市長メッセージに「市の財政状況を一気に悪化させないために、しばらくはなにかとご辛抱をお願いすることになるかも知れません」と書いた意図は。
回答	20億円を超えるその負債のうち、一定金額については一般会計からの繰り出しが必要になる。そうすると、いろんな市民サービスに影響してくるので、ある程度予告しておく必要があると考えた。